

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	防府市		代表者名	市長 池田 豊	
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	デジタル推進課	連絡先電話番号	0835-25-2412
担当者役職	デジタル戦略係長	担当者氏名	下田 絵里	連絡先E-mail	
住所	747-8501 山口県防府市寿町7番1号				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署		連絡先E-mail	
担当者氏名		連絡先電話番号			

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	DX人材育成事業		
概要	職員向けDXマインド醸成研修の開催				
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成）				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年7月2日	講演(実地)	8時50分	14時50分	
				活動時間（分）	360
2-2. 派遣場所	会場名	防府市役所	最寄駅	JR防府駅	
	所在地	山口県防府市寿町7番1号	最寄駅からの交通手段	徒歩10～15分	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	佐藤 泰格
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	同じ地方自治体職員という立場から、実体験、時には失敗談を交えて、先進自治体の考え方やノウハウを凝縮して学ぶことができる講演をいただき、今年度のDX人材育成へ向けたキックオフとなった。解決方法がデジタルか否かにとらわれずに課題を整理し業務の変革を行うことがDXであるというテーマを、こちらのレベル感に合わせた分かりやすい言葉でお話しいただき、デジタルに苦手感がある職員もDXに対する抵抗感が解消された。研修後にも事務局（デジタル推進課）職員の質問にも親身になって御回答いただいた。
アドバイザーへの要望事項	DX推進リーダー育成は令和5年度から令和7年度までの3年計画で推進していますので、引き続き来年度も御支援いただけますと幸いです。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	120人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	120	0	0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	令和5年度から令和7年度まで、毎年度、各課から職員1人をDX推進リーダーとして研修を実施し、DX人材を育成することとしている。（DX推進リーダーの役割…①課題設定・解決能力の強化を目的とした研修への参加、②所属における①の研修成果や意識の普及、③適切なデジタル技術を活用した所属の課題解決 等） 自治体DXを推進していくため、DX人材の裾野を広げることとし、毎年度、別の職員をDX推進リーダーとしているが、DX推進の土台となるDXマインドの醸成、サービスデザイン思考、ファシリテーションスキルの基礎等の教授法が課題となっている。 また、令和5年度には、DX推進リーダーや実務を担う若手中堅職員が取組を進めようとする際、他職員が前例踏襲やデジタルへの苦手意識から取組に対し後ろ向きと捉えられるような事案が見受けられた。DXを推進していくには、組織として取組を後押し、下支える意識の醸成が必要であり、所属長を中心とした、組織的にDXマインドに基づく取組を推進する体制の整備が課題となっている。
-----------------------	--

<p>支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)</p>	<p>DX推進リーダー及び各所属長のそれぞれを対象に実施するDXに関する基礎的な研修の講師を依頼した。 (1) DX推進リーダー向け研修 当該研修後に、より実践的なDX研修(BPR等)を実施する予定であるため、DX研修のキックオフとして、同じ地方自治体職員の視点から御講演いただき、国の動向や地方自治体の未来を踏まえたデジタル化推進の必要性や、DXを推進する上での重要な視点を学ぶとともに、DXマインドの醸成を目指す。 (2) 所属長向け研修 所属長を対象に、国の動向や地方自治体の未来を踏まえたデジタル化推進の必要性や、DX推進において管理職が意識すべき事項について御講演いただき、組織的なDX推進体制の整備を目指す。</p>	
<p>アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)</p>	<p>DX推進リーダー向けDX基礎研修及び所属長向けDX基礎研修の開催支援。大雨に伴う水防本部設置に伴い全体研修は中止し、後日公開する研修動画の収録を行った。その際に数人の職員が現地受講した。 収録した動画は、同月中に受講対象者を一会場に集めたうえで視聴する予定。 講演内容は、「必ずしもデジタルで解決する必要はない」「業務を出来るだけシンプルにする」「利用者目線で業務を見直し、対応可能な改善をしていく、又は新たなサービスを創造する」「デジタル化に合わせて規則等の既存ルールの見直し・改正を行う」等のDXマインドから、課題の細分化の手法や、他自治体の取組状況に関する情報収集方法等、基礎的かつ実践的な内容で、アドバイザー所属自治体の成功事例・失敗事例も数多く交えたものだった。</p>	
<p>支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)</p>	<p>受講者はDX推進リーダーに任命されたものの、DXが何か、何のためにDXに取り組むのか、等を理解していないフェーズにあったが、この度の研修支援により、DXに関する基礎知識の習得をするともに、各担当部門がDXに挑戦していくマインドのベースができた。 デジタルに苦手感がある職員も、DXに対する抵抗感が解消された。</p>	
<p>具体的な成果物</p>	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。</p>	<p>⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない</p>
<p>改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)</p>	<p>先述のとおり、水防本部設置という緊急対応のため、本来予定していた研修形態では実施できなかったため、収録した動画を、同月中に受講対象者を一会場に集めたうえで視聴する予定。</p>	
<p>アンケートの内容と分析結果</p>	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 現地参加した6人の職員に対するアンケートの結果、受講者のほぼ全員が「業務にとっても役立つ」「大変満足した」と回答し、研修理解度も高かった。自由記載欄では、「デジタルが苦手で拒否感があったがDXが課題解決の取組であることが理解できた」「業務の課題整理から始めたい」等、前向きな意見ばかりだった。</p>	
<p>4-3. 今後の計画</p>	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい</p>	<p>①予算は確保済みであり、年度内に推進する 本支援の翌月からDX推進リーダーを対象に「DXを推進する際のリーダーシップ手法」や「デジタル技術実装に向けた考え方」「具体的なBPR手法」の習得に関する、より実践的な研修を実施し、各所属に実在する課題の解決や業務改善の過程を学ぶことで、DX人材を育成する。</p>
<p>4-4. 事業の最終的な目指す姿</p>	<p>DX推進リーダーの経験があり、DXマインドや市民サービスデザイン志向が高い職員が各所属に複数人(全庁では約150名)いることにより、各所属が市民利便性向上及び業務効率化を目指して自立的にDXを推進できる体制になる。</p>	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

